令和８年度　単元テスト導入の経緯と評価

小松市立南部中学校

１　令和６年度までの学習に対する課題

・日常的な学習習慣がついていない
・定期テスト前しか勉強しない
・与えられた課題以上のことをしない　　生徒が多くみられる

２　単元テストの導入へ

・教師が立てた単元計画を教師と生徒が共有し、見通しを持った主体的な学びにつなげたい
・テストのための勉強ではなく、日常的な学習習慣につなげたい
・スモールステップで学習の定着を確認し、学びの意欲化と確実な定着につなげたい
・主体的に学ぶ姿勢を育て、学ぶ喜びや将来への希望につなげる

■令和６年度まで

１・２学期 → 中間テスト → 期末テスト

■令和７年度から（例）

１・２学期 → 単元テスト → 単元テスト → 期末テスト

３　令和７年度の学習アンケート（生徒用）より

◎ポジティブな意見

・テスト範囲が狭いので、計画的に取り組みやすい
・どの単元が苦手かわかるため、学習改善につなげやすい
・短いスパンで理解度が確認できるため、１つ１つの単元への理解が深まる
・定期テストの回数が減ったことで、テストへのプレッシャーが軽減される

▲ネガティブな意見

・期末テストの範囲が広くなる
・単元テストだと真剣に取り組めない
・順位がわからない
・テストの回数が増えるため、家で勉強する回数が増える

※　単元テストに対するネガティブな記述の割合

３年生　６６．７％　　２年生　５２．０％　　１年生　３８．７％

（３・２年生のネガティブ記述が多く、変化への不安が大きいことがわかる）

４　令和８年度の改善点

・各教科の単元計画の、教師と生徒との共有化を進める
・単元テストの結果を丁寧にフィードバックして、学習への達成感と学力の定着につなげる
・学習計画を立てさせることで、学習に見通しを持たせ学習習慣の定着につなげる
・主体的に学習に臨むことで、学習内容のより深い理解につながることを実感させる
・単元テスト、期末テストを適切な評価に生かす

５　令和８年度の学習アンケート（３年生）より

・単元テスト支持　５２％　　中間テスト支持　４８％

・単元テストと中間テストの比較について

単元テストを肯定的にとらえている生徒の多くは、**理解度確認や弱点克服の機会**として捉え、自ら計画的に学習している。

中間テスト肯定派の多くは、テストを**学習の動機**として捉えている。

・上記より今後の改善点として

単元テストを有効活用するために、目標設定や振り返りシートと組み合わせるなど、生徒が日常的に主体的に学習に取り組めるプロセスをより重視する。

「テストのために勉強する」から、勉強の楽しさを感じたり、自己の成長のための勉強であることを実感させる取組を推進する。

総合的な学習の時間を、より実社会とつながる探究的な学びに変えていくことで、学ぶ意欲や動機を高める。

定期テスト・確認テスト等の実際

